保津川かわまちづくり計画

「保津川」は、長岡京・平安京の造営時に丹波の木材を筏に流して輸送し、また江戸時代には木材や食料などの多くの物資を丹波から京都に運ぶ舟運の役割を担っていました。今でも豊かな穀倉地帯への用水供給や貴重な水と緑の自然空間、保津川下りやトロッコ列車などの観光資源、多くの生き物の生息環境等の様々な役割を果たしています。一方、保津峡の狭窄によって、これまで幾たびとなく氾濫を繰り返し、亀岡地域に多くの被害をもたらしてきましたが、日吉ダムや河道改修による治水対策の進展により、以前に比べ治水安全度は飛躍的に向上しました。

これからは引き続き治水対策を着実に進めるとともに、沿川の人々の暮らしと深く関わり続けてきた保津川の歴史や文化を踏まえながら、川を活かした新たなまちづくりが望まれています。

このような中、「保津川かわまちづくり検討委員会」を設置するとともに、市民団体の方々等との「意見交換会」を開催し、幅広く意見をお聴きしながら「保津川かわまちづくり計画」を策定しました。

今後は、この計画に基づき、多くの方々の参画のもと、保津川と亀岡の魅力が最大限に活かされた“かわまちづくり”の実現へとつながっていくことを期待するものです。

『かわ』の特性

- ○古から地域の暮らしと発展を支えてきた保津川
- ○今日を築いた度重なる水害との戦いの歴史
- ○良好な水質と豊かな自然環境
- ○様々な河川利用が行われている貴重なオープンスペース

『まち』の特性

- ○京阪神に近く、快適で暮らしやすい住宅都市
- ○保津川沿川は広大な農地が広がる田園都市
- ○城下町として歴史的資源を有する歴史文化都市
- ○沿川での新しいまちづくり

目標１：『かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり』

- ○かわとまちの接点の一体的整備
- ○かわとまちをむすぶネットワークの形成
- ○川の楽しさ、恐ろしさを伝える情報の発信

目標２：『かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり』

- ○保津川のシンボルの創出
- ○観光拠点の整備充実
- ○まちの資源を活かした観光ネットワークの形成

目標３：『かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり』

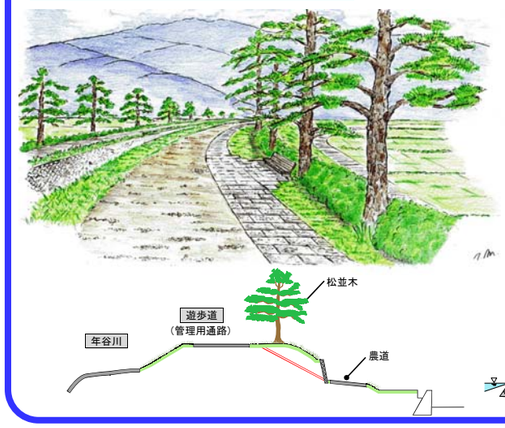
- ○川の自然を感じる交流・ふれあいの場の創出
- ○アユモドキをはじめ多くの生き物の生息環境の保全再生
- ○保津川と人との関わりの歴史文化を伝える

“むすぶ”

治水対策やまちづくりの進展を活かして「かわ」と「まち」のより良い関わりを結んでいくための取り組みを進めます

（主な整備イメージ）

年谷川の松並木道「野橋立」の復元

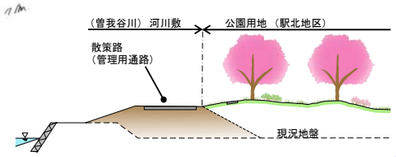


タイムリーな情報の発信

「河川電光表示板」

「洪水標識」

駅北区画整理事業との連携

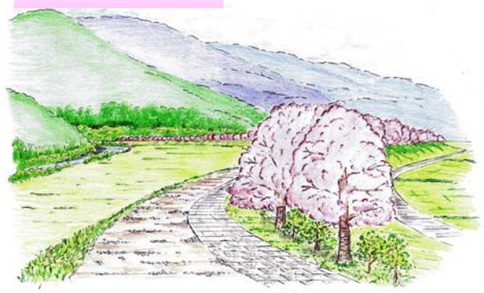


“にぎわう”

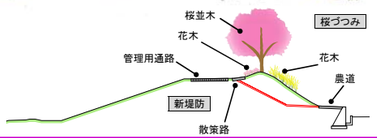
地域の観光資源と連携しつつ川を活かしてまちの魅力を創出する取り組みを進めます

（主な整備イメージ）

『(仮)保津川・花回廊』



山本浜の再生



観光動線の整備

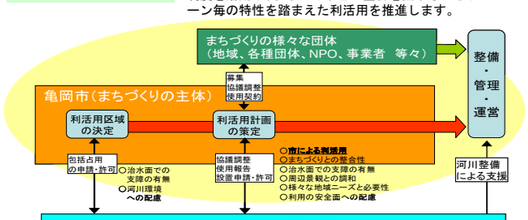
“ふれあう”

保津川の恵まれた自然、沿川の優れた歴史文化にふれあえる取り組みを進めます

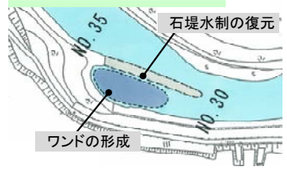
（主な整備イメージ）

高水敷の利活用

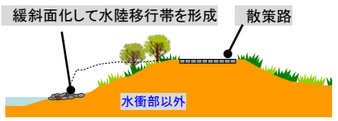
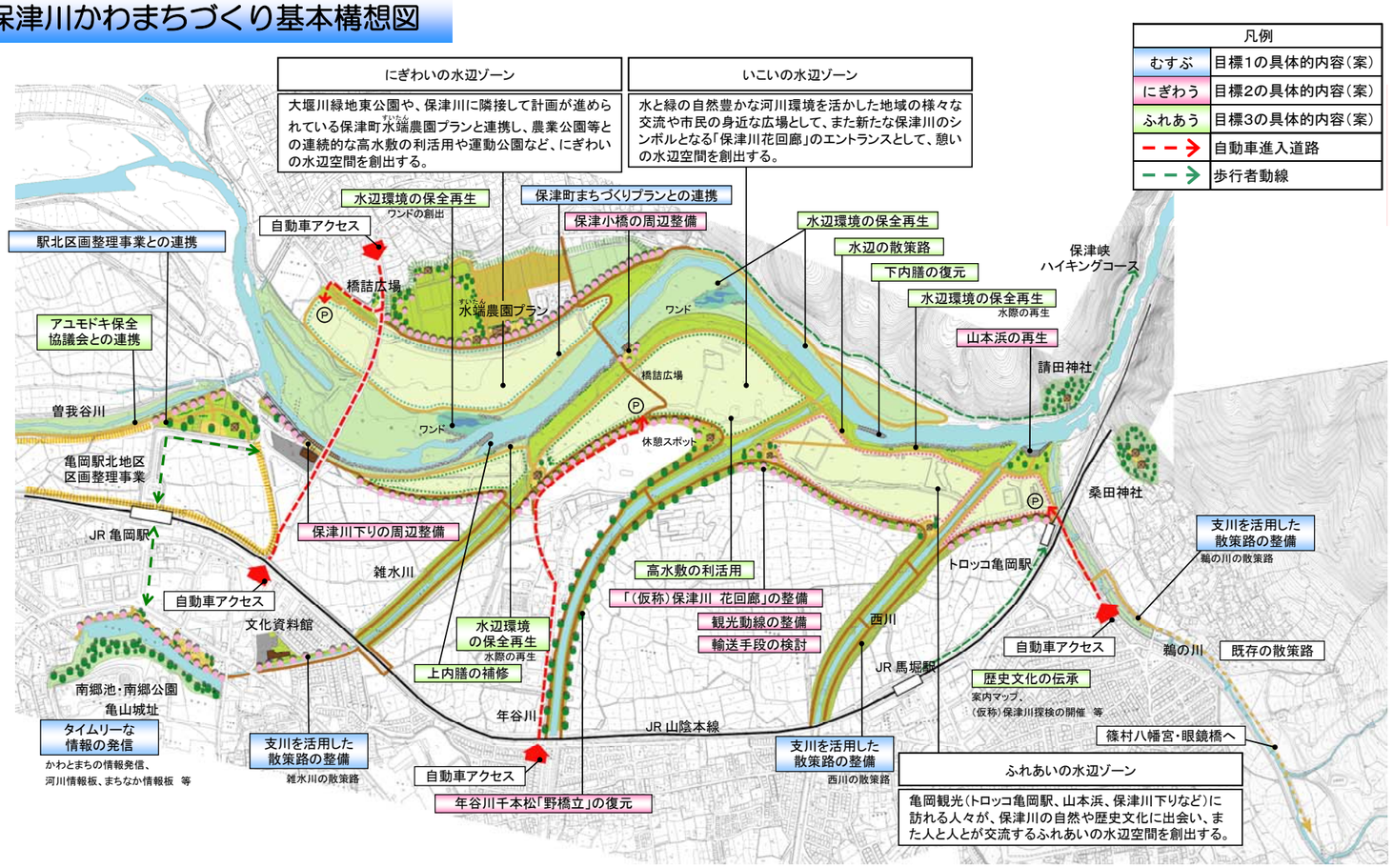
高水敷については、亀岡市が中心となって包括占用制度を活用し、まちづくりとの整合を図りながらゾーン毎の特性を踏まえた利活用を推進します。



上内膳・下内膳の復元



水辺の保全再生・散策路



保津川かわまちづくり基本構想図